

# ミサゴ便り

平成 19 年 4 月 15 日発行

弓削野鳥の会編集発行

春かすみ、積善山にミサゴ舞う・・・ いわぎ桜まつり



未明の雨も止み、暑くもなく寒くもないちょうどいい、桜日和となった4月1日、岩城の桜まつりに弓削野鳥の会がバードウォッチングの講師と

して招聘されました。小学生から年配の方まで幅広く、20名ほどの参加者と一緒に桜並木をぞろぞろと積善山を散策しました。きつい勾配の林道を4kmほど、2時間かけて頂上まで上りました。途中途中で、ホウジロ、コゲラ、ヤマガラ、ミサゴ等観察することができましたが、目新しい鳥は観察できませんでした。しかし、初めての参加者にとっては、中腹の池にダイビングするミサゴの姿に感激しているようでした。それだけでも成果があったと嬉しく思いました。

積善山の植生は、エノキ、アベマキなど落葉広葉樹とアカマツが多く、頂上付近はウバメガシの林が多く見られました。1995年3月には大規模な山火事が発生し、133haを焼失したその影響のせいか、放棄された耕作地、果樹園には、まだ低木が多く、野鳥の餌になる樹木が少ないよ



うに思われました。弓削と比べると野鳥の数が幾分少ないように思えました。しかし、まあ疲れましたね。頂上 369.8mの積善山、久々のまさに遠征でしたね。いい運動にはなりました。頂上での夏井いつきの句会ライブも良かったですね。弁当も美味しかった。なにかしら充実した1日でした。また、来年もいきますか。

### ボルネオ島の青い稲妻(part2)・・・松本敏和

2日目の朝4時に目を覚ます。夜明けをベッドの中で待つがいつ



こうに明ける気配がない。出発までのわずかな時間をバードウォッチングに出かけようと思うがなかなか夜が明けない。待ちきれず身支度を整えた。6時を

過ぎた頃からようやくうす暗くなったので、ホテルの周りを散歩がてらのバードウォッチングとしゃれ込む。しかし、かなりの数の鳥はいるものの、双眼鏡は拭いても拭いてもすぐに曇るし、薄暗くてシルエットしか見えないので、ヒヨドリぐらいの大きさの鳥が多数行き交うのが分かるだけだ。唯一、ホテルの中庭にある池で小魚を

狙っているシロハラクイナが識別できた。どうもこいつは、毎朝必ずやって来て、ホテルのブレックファーストを楽しんでいるらしい。ほかにはキジバトに似た鳥と黒



く両翼の中央に白い大きな斑のあるヒヨドリぐらいの大きさの鳥がいたぐらいだった。ビンタン島と同じように朝食時には食べ屑をスズメの群れが狙っているが、ここのスズメはおとなしいのか人が食べ終わるのをじっと待っている。朝から定番のコタキナバル市内観光、午前中は、イスラム教の寺院となるモスクや中国の仏教寺院を見学した。モスクには崇拝の対象となる仏教で言えば仏像のようなものは一切なく、ただ聖地メッカの方向を示すだけで装飾を施した広い礼拝場があるだけだ。仏教寺院には神社の狛犬のように獅子と

3本牙の象が並ぶ。朱色の建造物は既に周知のことと思う。昼食後、町から車で1時間ぐらいの水上集落を訪れた。水中から柱が突き出て梁を渡し家を建て、家々の間には足場板を渡し通路としている。漁業を中心に自給自足の生活を営み、必要なものは物々交換で手に



入れる。集落に一歩足を踏み入ると何処からともなく子供たちが人懐こい笑顔で後を付いてくる。物を売るのでもなく物乞いす

るでもなく日本人が物珍しいのか離れようとしなない。集落の中程には雑貨屋があり、のどの渴きを潤そうと缶ジュースを買いに入ると、子供が店番をしている。1個1.5RMのジュースを5個買って10RM支払うと、しばらく考えて2.5RMのお釣りを手渡された。余談だがもう1軒の店では1RMだったそうだ。戦後の日本の子供たちにも似たような笑顔には、何故か郷愁を感じる。教育には政府の補助制度があり義務教育は無料、成績がよければ大学へ行ってもそんなにお金は掛からないので近隣諸国からの留学生も多くいる。恵まれた

教育制度ではあるが、このような集落では学校へ通う子どもは少なく、政府も就学を促す政策として1日通学すると1リンギット貰える政策をとるが、あまり効果は上がっていない。人口も正確に把握できず選挙も町に住む住民だけで行われる。定番の観光コースの最後は州立博物館でボルネオ島に住む住民だけで行われる。定番の観



光コースの最後は州立博物館でボルネオ島に住むダヤク族、マライ人、中国人の歴史や文化、民具などを展示してある。

博物館内の売店で探し当てた著書「A Photographic Guide to the Birds of southeast Asia」日本語版はなくやむなく英語版を購入した。この先、同室者の迷惑をも顧みず、酔っ払って寝ぼけた目をこすりながら、持参した日本の図鑑と比較しながら、学名を照らし合わせる苦痛を予期するように博物館を出たとたん、土砂降りの雨とともに雷鳴が轟き、稲妻が黒雲を白く照らす。この夜、ガイドブックとにらめっこし、この旅の目標とする野鳥をサイチョウ類と大型のカワセミ科の鳥（ヤマショウビン、アカショウビン、ナンヨウショウ

ビン) とした。(to be continued)

## 釣り事情に思うこと 村上 尚

最近、子供とよく釣りに行くことがあり、いろいろと考えることがある。いわゆる餌代わりに使うルアー（疑似餌）のことである。昔は、ゴカイやエビなどの生きた餌で釣るのがほとんどだったが、最

近では研究  
る目的によ  
どりのルア  
店で売って  
釣り用のエ  
ル・ホゴ等



が進み、釣  
り、色とり  
ーが釣具  
いる。イカ  
ギ、メバ  
の磯付魚

用のルアー等、これが結構高い値段で売られている。弓削でも栈橋  
付近、離岸堤付近でよく釣り客が竿を伸ばしているが、いつもいつ



も釣れるわけではなく、地球を  
釣ることも度々あることと思う。  
その際に、海底に疑似餌等がそ  
のまま、残ってしまう。海底を  
一掃すれば、たくさんの釣り用

具が集まることと思う。これが、生態系に及ぼす影響もいろいろあ

と思う。疑似餌は腐食することなく海底にそのまま残ってしまう。魚類は間違えて餌と思い、喰らいつくかもしれない。それをまた、鳥が喰らいつく、その悪循環、鳥の胃袋に残り、死に追いやられる鳥も出てくるかもしれない。いろいろ考えると地球環境の破壊につながるいろいろな要因がそこかしことあるわけである。私もそれに加担しているようなものである。いろいろと考えさせられる。しかし、魚もなかなか色合いがいいですね。ホゴの色合いもいいですね。弓削で釣れる魚の写真集を出すのもいいですね。

## ヒナを拾わないで！！

## 日本野鳥の会



・ どうしてヒナが地面に  
いることがあるのです  
か？

野鳥のヒナの多くは、卵からかえって羽が生え揃うとすぐに巣立つので、巣から飛び出す段階では上手く飛べずに落ちるものもいます。でも、けがをしていなければ、親鳥が給餌や誘導をするうちに、

少しずつ飛べるようになると考えられます。

・ ヒナを見つけたときは、どうしたらよいのでしょうか？

巣立ち直後のヒナはあまり動きません。親鳥は人がヒナの近くにいると警戒してやってこられません。ヒナに手を出して親子を引き離すと「誘拐」になるので、その場を去るほうが良いでしょう。

・ネコやカラスに食べられないでしょうか？

心配ならば、ヒナを近くの茂みの中に置いておくこともできます。親鳥は姿が見えなくても、ヒナの声で気づくことができるでしょう。

・人がヒナを育てることはできないのですか？



たくさんの虫を与え続けるなどすれば、育てられることもあります。ただ、自然界では巣立ち後に親鳥

と過ごすわずかな期間（1週間から1ヶ月）に「何が食べ物で、何が危険か」などを学習して独り立ちするので、人に育てられたヒナは自然の中で生きていくとは限りません。

（※イラストは岡村美恵子さんの作品です。ツグミとカワセミの色合いがよく出ていますね。）

鳥インフルエンザ？

アオバトの死骸



3月の初旬頃、白玉明子さんが自性寺付近で、アオバトの死骸を拾われました。目だっ

た外傷は見られず、不思議に思われましたが、今年は野鳥の死





骸が意外とたくさん見られましたね。原因は??

### 平成19年度弓削野鳥の会活動計画

今年は弓削島の鳥を観察してみましよう。

集合場所：公民館（午前9：00集合）

開催日	活動内容	場所	備考
4月29日	夏鳥を探そう	三山方面	
5月27日	渡り鳥の観察	三山方面	オオルリ
6月24日	水辺の鳥の観察	佐島方面	バン・カイツブリ
7月29日	ツバメの観察	上弓削方面	
8月26日	弓削の野鳥 (バードリスニング)	三山周辺	
9月30日	渡り鳥の観察	狩尾方面	
10月28日	冬鳥の観察	日比方面	
11月25日	猛禽類の識別	狩尾・大谷方面	
12月16日	冬鳥の観察	日比・鎌田方面	
1月27日	町外遠征	尾道方面	
2月24日	冬鳥の観察	久司山方面	
3月30日	春を探そう	三山周辺	

※雨天の場合は中止

※都合により日時が変更になることがあります。その際には連絡網で回します。

※公民館に集合し、それぞれの車に分乗し観察場所まで行く。

※参加者は各自必ずゴミ袋を持参し、放置されている空き缶などのゴミを拾う等、自然環境の美化に努める。

◎島外観察については旅費：実費個人負担とする。また、弁当等についても各自準備すること。